

# 災害情報流れるラジオ

## 倉敷で開発 市導入検討

### 電源OFFでも…

電源がOFFでも災害情報が流れます。エムエフエス（倉敷市白楽町、大久保憲作社長）と倉敷ケーブルテレビ（同市西富井、務台和正社長）は、災害発生時に自動的に電源が入って避難勧告や避難場所などの災害情報を伝える「緊急告知ラジオ」を共同開発した。中越地震で大きな被害のあった新潟県長岡市などから問い合わせが相次いでおり、倉敷市も新年度からの導入を検討している。

このラジオに組み込まれた緊急告知システムでは、災害発生で自治体に対策本部が設置された場

合、自治体と緊急放送協定を結んでいるFM局が特殊信号の入った電波を発信。その電波を受信したラジオに自動的に電源が入り、大音量で緊急放送が始まる。

受信と同時にライトが点灯するため、聴覚障害者にも災害発生を知らせることが可能。二百五十

gと軽いため、持ち運びが便利で、避難しながらでも情報を聞ける。また、充電式バッテリーを内蔵しており停電時にも作動。電波が届かない地域でも、ケーブルテレビへの接続で受信できること

い。

これは、自治体の

広報車が避難を呼びかけず避難勧告・指示などの「室内まで聞こえず避難が遅れた」といった住民の不満が多く聞かれていた。しかし、ラジオが構築する防災無線システムより導入が簡単で、運用コストが安いとい



緊急告知FMラジオの試作品を手に説明する大久保憲作社長

地の測量、設計、用地整備（水田のくぼ倒し工）、進入路の新設工事などを済ませた。ところが、これらは用地の所有者と売買契約書を作成せず、公有財産の確定がなされないまま着工。測量や設計については「用地購入の前段業務として適法」とし、費用の返還請求を棄却した。梅田旧町長は「監査結果をとかくいうつもりはない。勧告に従う」と話している。

許・実用新案などを出願中。大久保社長は「テスト、機能チェックも問題なく予定通り発売したい。自治体の購入補助などで普及が図られ、生産が増えれば価格はもっと安くなる」と話している。

う。

ラジオは来年三月ごろ発売予定で価格は一台約八千円を予定。現在、特